

## 助産学実習Ⅱ

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 遊田 由希子 准教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	4	区分・時間数	実習 300 時間
期 間	後期		
単 位 数	8 単位		

・学修方針（講義概要等）

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者が有する生理的能力を十分に引き出す助産ケアを提供できるよう、その身体的および心理社会的特性を踏まえた助産過程の展開を通じ、基本的な助産診断・技術力を習得する。具体的には、受持ち事例に対する分娩介助を含む分娩期（分娩第1期～第4期）の助産過程の展開と助産ケアの実施および産褥期・新生児期の助産過程の展開と助産ケアの実施を行う。その他、妊娠期における助産ケアの実際についても体験的に学修する。

・教育成果（アウトカム）

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者が有する心身の特性を踏まえた助産過程の展開を行い、基本的な助産診断方法と助産技術を習得することができる。また、対象者が有する生理的能力を十分に引き出すための保健指導に参加し、その展開方法について知ることができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー： 1, 2, 3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 分娩期における助産過程を展開し、個々の健康状態や分娩経過に応じた助産ケアを実施することができる。
2. 安全および安楽を確保した分娩介助技術を習得することができる。
3. 分娩を介助した事例の産褥期および新生児期の助産過程を展開し、個々の健康状態に応じた助産ケアを実践することができる。
4. 妊娠期における助産過程を展開し、個々の健康状態に応じた助産ケアを実施することができる。
5. 妊娠期および産褥期における保健指導（集団・個別）の実際に参画し、実施する際の留意点や重要点を述べることができる。
6. 妊娠期から育児期を通しての助産師の役割について自分なりの考えを述べることができる。

・ 授業日程  
【実習】

日程	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
前半 8/7(月) ～9/29(金) 後半 11/27(月) ～12/22(金) ※うち 8 週間	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授 遊田 由希子 准教授 西里 真澄 講師 高橋 淳美 講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分娩期における助産診断と助産ケア</li> <li>・ 産褥期および新生児期における助産診断と助産ケア</li> <li>・ 妊婦健診および保健指導</li> <li>・ 母親学級、母乳外来、助産外来および産後 1 か月健診など</li> </ul> ※詳細は、実習要項に記載する

・ 教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産学講座 6 助産診断・技術学 I [1] 妊娠期	我部山 キヨ子 編集	医学書院	2021
教	助産学講座 7 助産診断・技術学 II [2] 分娩期・産褥期	我部山 キヨ子 編集	医学書院	2021
教	助産学講座 8 助産診断・技術学 II [3] 新生児期・乳児期	江藤宏美 責任編集	医学書院	2021

・ 成績評価方法

実習記録 60%、実習態度 40%にて評価する。なお、実習態度については実習評価表に基づいて評価する。

・ 特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にある対象者の健康状態を把握するための観察項目や助産ケアの基本について、教科書や配付資料、ノート等で十分な復習を行った上で実習に臨むこと。実習終了後は、その日の振り返りと翌日の自身の課題を明確にすること。なお、事前事後学修は、少なくとも 60 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

提出された記録物等については、適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表 2）：臨地実習 助産学実習

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			